

競技上の注意

第 69 回中部日本卓球選手権大会
審判長 五十嵐 健二

本大会は、平成 29 年 6 月 1 日改定・実施の日本卓球ルールを適用して実施する。

1 基本ルールについて

① サービス

- ・サーバーは、フリーハンドの手のひらを開き、その上につかむことなく自由に転がる状態でボールをのせ静止させる。この状態からサービスは開始される。
- ・サーバーは、ボールに回転を与えることなく、ボールがフリーハンドの手のひらから離れた後、打球される前になにもものにも触れず落下するように、16 cm 以上ボールをほぼ垂直に投げ上げなければならない。
- ・サービスが開始されてから、ボールが打たれるまでの間、サーバーまたはダブルスのパートナーの体の一部または着用している物で、ボールをレシーバーから隠してはならない。
- ・ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームとフリーハンドを、ボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。

② ゲームおよびマッチ

- ・試合はトーナメント方式で行い、1 ゲーム 11 ポイント、5 ゲームスマッチとする。

③ 促進ルール

- ・ゲーム開始後 10 分経過した場合は、促進ルールが適用される。
- ・両方の競技者または組から要請があった時には、いつでも促進ルールが適用される。
- ・両方の競技者または組のポイントスコアの合計が、少なくとも 18 ポイントに達している場合には、促進ルールは適用されない。
- ・促進ルールが適用された場合、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。

2 競技ルールについて

① ボール

- ・日本卓球協会公認の「白色スリースター」40 mmプラスチックボール (Nittaku (グラ3 スタープレミアム)・TSP (CP40+3 スター)・バタフライ (バタフライスリースターボール G 40+)) を使用する。
- ・対戦する双方の競技者または組が選択したボールのメーカーが相違するときは、主審は使用するボールのメーカーを決めるために拳を実施する。主審は、決定されたメーカーのボールの中から無作為に 1 個のボールを選び、そのボールでマッチは行われる。
- ・マッチ中にボールを交換しなければならない場合は、使用されていたボールと同じメーカーのボールと交換する。

② ラケット

- ・ラケットには、J. T. T. A. A の刻印及び商標、または指定業者名の略称と J. T. T. A. A の連続刻印がなければならない。
- ・JTTA が未公認の外国製ラケット本体を大会で使用する場合は、競技開始前に審判長の許可を得なければならない。
- ・ラケットが使用に耐えられない程度に破損した場合は、競技領域に自分で持込んであった別のラケット、または競技領域内で手渡されたものと交換しなければならない。

③ ラバー

- ・ラバーは、現在 ITTF または JTTA が公認しているものでなければならない。
- ・ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出さないように覆うものとする。
- ・ラバーの各層または接着剤層は、いずれも連続していて、均一の厚さでなければならない。
- ・サンドイッチラバーは接着剤を含む全体の厚さが 4.0 mm 以下でなければならない。

④ 服装

- ・競技用服装 (シャツ、ショーツ、スカート) は、いずれも JTTA の公認マークの付いているものを着用しなければならない。
- ・競技用服装 (シャツ、ショーツ、スカート) の主たる色は使用するボールの色と明らかに違う色でなければならない。

ない。

- ・競技用シャツの背中に、JTTA 指定の平成 29 年度用のゼッケンをつけなければならない。
- ・対戦する競技者または組の競技者の、競技用シャツは、互いに区別ができる程度に異なった特徴を持つものでなければならない。したがって、あらかじめ色、柄の異なった 2 種類以上の服装を用意しなければならない。
- ・ダブルスを組む競技者は、互いに所属が異なる場合でも、同一の服装でなければならない。ただし、ショーツ、スカートについては、同系色であれば、まったく同一でなくとも着用できる。
- ・サポーター、リストバンド、ヘアバンド、スパッツに付ける広告は、それぞれメーカーの商標・ロゴのみ 1 ケ所とし、12 cm²以下であること。ただし、JTTA 公認用具指定業者の製品のみ認められる。

⑤ ラケットコントロール

- ・ラバーをラケット本体に貼る場合、揮発性有機溶剤を含んでいないものとして JTTA が公認した接着剤のみを用いて行うものとする。
- ・揮発性有機溶剤を含むラバークリーナー等を使用してはならない。
- ・審判長が定めた方法により、マッチ前またはマッチ後に検査器を用いたラケット検査が行われることがある。マッチ前の検査で基準を超える揮発性有機溶剤が検知された場合には、そのラケットは使用できない。マッチ後の検査で競技者のラケットに基準を超える揮発性有機溶剤が検知された場合には、その競技者に対してそのマッチのみの負けが宣告される。

⑥ 幕および旗の掲示

- ・競技場内に掲げるチームの幕は、タテ 1m×ヨコ 4mを最大寸法とする。記載内容には商品名等広告を目的とした文言を含んではならない。
- ・競技場内に掲げるチームの旗は、タテ 1.5m×ヨコ 2m以内とし、校章、社章またはシンボルマークを中央に入れ、タテかヨコ表示のクラブ名（卓球部名）を入れるものとする。
- ・縦幕は原則として許可されない。また旗を縦に長くして掲示することはできない。

⑦ 審判

- ・3 日間とも各コートの第 1 試合目は、主管県から審判を行うこととする。
- ・第 2 試合以降は、原則として敗者審判とする。
- ・敗れた選手はそのままコートに待機し、次の対戦用紙（進行委員持参）と選手がそろったら、審判を行うこととする。
- ・各種目において準々決勝から主催県にて審判を行うこととする。

⑧ タイムアウト

- ・タイムアウトは適用しない。

⑨ アドバイス

- ・アドバイザーはなしで行うこととする。
- ・言葉や身振りによるアドバイスは、ルール違反の対象となる。

⑩ 競技者のバッドマナー

- ・競技者（組）は、相手競技者に対し不当な影響を与え、観客に不快感を与える、またはそのゲームの評判を落とすような、くせや態度を慎まなければならない。その行為とは、大声で叫んだり、汚い言葉を使う、故意にボールを潰す、競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを蹴る、競技役員の指示を無視するなどが含まれる。
- ・「スロープレー」もバッドマナーの対象となる。競技者（組）は、ポイントが決定した後、速やかに次のサービス体勢、あるいはレシーブ体勢をとり、みだりに時間を取ることなく、競技の円滑な進行に協力しなければならない。

3 その他の注意事項

- ・競技者は、コートや時刻などプログラムで確認し、遅れることなくコートへ入場してください。
- ・進行の都合上、試合コートや時刻を変更することがありますので、放送などにご注意ください。
- ・試合終了後はコートで審判の記録に目を通して署名し、選手用控えを受け取ってください。
- ・ラバーの貼り替えは、指定場所で行ってください。
- ・観客から見える場所での着替えは控えてください。
- ・報道関係者など許可された者以外は、フロア内でのカメラ、ビデオによる撮影は禁止とします。
- ・フロア内では、競技役員等の運営関係者以外の携帯電話は使用禁止とします。
- ・フロア内への飲み物の持ち込みは、フタのできる容器類に限ります。